

① 朝鮮戦役記念碑



【石碑について】

〔説明〕

明治十七年京城（現ソウル）に派遣されていた歩兵第四連隊第一大隊第一中隊が現地で戦闘を行ったことが石碑にしるされている。

【碑文】

朝鮮戦役記念〔破損〕

志士不忘在溝壑勇士不忘喪其元況列名於軍籍委身於邦国者一旦有事視死如帰固其所也然其勇敢壯烈以寡敵衆隕命於異域全節於海外則安得不紀而表之耶明治十七年十二月朝鮮国都乱起国王迎納我竹添公使於城中時歩兵大尉村上正積率歩兵第四聯隊第一大隊第一中隊駐屯国都乃護公使入王闕既而乱兵暴起我兵奮戰激闘約三時間竟擊却敵兵衛公使出王闕赴濟物浦乱兵梗塞前略皆破之而過殺傷敵兵百余人而我兵死者三人傷者九人耳是役也變発倉卒主客殊勢衆寡不敵以羈旅無繼之兵四面応敵而其功如此雖曰訓練有素之所致抑可以見士卒之勇敢也十八年七月中隊還至東京天皇幸吹上苑而觀其整列式盖特典也而死者不及見焉悲夫有志之士相謀建碑以追索其壮烈俾余紀 其事乃慨然拈筆

明治十八年十二月

陸軍中將從四位勲二等子爵曾我祐準篆額

陸軍少將正五位勲三等佐久間左馬太撰

陸軍少將正五位勲三等大沼涉書

（出典・宮城野区民ふるさと創生事業実行委員会）

② 名勝榴ヶ岡（櫻）の碑

【石碑について】 【説明】

榴岡は山榴ヶ岡が正しく躑躅ヶ岡とも書き、昔はツツジと馬酔木アセビが自生し、花を布に摺り、榴摺りと称したと

【碑文】

碑文

名勝榴ヶ岡（櫻）の碑

史蹟名勝天然記念物保存法により

大正十二年十二月内務大臣指定

これを記念して昭和三年十月建立

（出典・宮城野区民ふるさと創生事業実行委員会）



③ つつじが岡の碑



〔石碑について〕

〔説明〕

榴ヶ岡の碑、裏面に歌人源俊頼のうたがある。歌に詠まれた玉田横野とは、原町小学校の校歌の一節にもあるが、「原町の台地の北側の小田原方面に至る一帯」(「ふるさと仙台・原町」高砂敏夫著)である。歌枕「玉田横野」は、もと撰津、河内両説があったが、大淀三千風らが貞享の頃仙台の歌枕に設定した。

〔碑文〕

碑文

〔表面〕

つつじが岡

〔左面〕

明治三十三年 仙台 大内氏

〔裏面〕

とりつなげ玉田横野のはなれ駒

つつじが岡にあせみはなさく

(出典・宮城野区民ふるさと創生事業実行委員会)

④ 鹿門岡先生碑



〔石碑について〕

岡千仞（鹿門）は天保四年（一八三三）仙台藩士岡蔵治の五男として生れ、佐幕派が中心だった幕末の仙台藩で最後まで尊王を唱えました。

千仞は江戸昌平校に学ぶうち、全国の勤王の志士たちと交わり、万延元年には刈谷藩の松本奎堂、大村藩の松林飯山と共に大阪に三人の名をとった「双松岡塾」を開いて子弟の教育にあたりました。

慶応四年の戊辰戦争時には奥羽列藩同盟に反対して捕らえられましたが、維新後は仙台市立片平丁小学校の前身麟経堂（りんけいどう）を経営し、多くの門人を育てながら仙台藩議事局に勤め、明治三年北村透谷、片山潜らが学んだ東京の綏猷堂（すいゆうどう）を設立し、東京府図書館長を勤めるなど活躍しました。

〔生誕一五〇年記念 勤王の志士 岡千仞展〕 昭和五十七年十二月より

（出典・宮城野区民ふるさと創生事業実行委員会）

〔碑文〕

鹿門岡先生碑銘 荊州 楊守敬題額 姪 岡濯撰文并書
晚歲猶存鉄石心

鹿門先生歿之十年門下諸子屬濯撰碑銘濯於先生親為叔姪義則師弟受教四十年畧其出處大節不可以不文辭焉先生諱千仞字振衣鹿門其号初名修字天爵称啓輔岡氏仙台人考諱衛之妣佐藤氏小学藩校弱冠遊江戸入昌平校專修經史學為會長與重野成斎中村敬宇藤野海南松本奎堂松林飯山交尤厚会米鑑来浦賀海内騷然先生西遊與奎堂飯山同寓浪華河野鉄兜書贈雙松三字一時喧伝志士來集日夜論天下形勢為幕吏所指目奎堂去糾合同志飯山西歸先生亦遊說公卿の間藩名東帰為養賢堂指南役新賜食禄建築鹿門山下而居焉戊辰正月伏見變起幕軍東走朝廷命我藩討会津先生蹶起曰千載一時請速出兵藩論依違不決已而奥羽鎮撫總督九條道孝率兵東下陣岩沼藩公至白石進兵迫会津会津松平容保遣使因我公謝罪公與米沢上杉齊憲至岩沼疏陳督府不聽各藩使臣会盟白石遂成官軍參謀世良修威相與舉兵時先生探常磐諸藩情狀至水戸聞之大驚馳至福島則形勢一變賊焰猖獗先生激昂論大義而無容焉者慨然賦長歌而去奉母氏逃於本吉山内耕煙邑密與參政三好清房謀欲奉一門族請討会先鋒時藩兵連敗官軍迫国疆清房為賊所劫刃自先生亦被縛臨死與耕煙訣飲耕煙作書先生贊之投筆而出下仙臺獄已而藩論反正先生見救舉於讓堂公子侍讀兼參務開麟経學堂講春秋

左傳以明大義名分藩人始知所向云當此時藩封削減士卒失

祿人心洶洶先生建言擬泰西法開議事局議定扶助方法士卒始安庚午春拜大學助教移家東京旁開私塾大學廢為東京府學教授先生知西學之不可講經史以外取格物入門萬国公法等書講之與河野道之高橋弘譯述米法國誌府學擔任修史館協修後補東京図書館長以疾辭之自此不復仕甲申春西航至上海周覽蘇杭諸勝過燕京登八達嶺縱觀萬里長城拜十三陵抵廣東羅瘴癘志半而歸此游見俞曲園張濂亭李少荃又訪彭雪琴張香濤論經術文章大有利益先生談及東亞大勢極論善隣之誼且說吸煙科學消耗国力之甚皆服其言至季少荃修禮請留寓當時名聲之籍籍可以知也後漫遊海内北自北海西極西海沖繩所至搜勝地名跡叙述前人逸事善聞名曰游乘積成數百卷又為從遊諸子創如闡社至老誘掖不倦甲寅二月十八日終於大崎邸壽八十有二葬於目黒祐天寺先是 今上以皇儲巡遊東北召先生賜謁於伊達伯爵邸其病革也特旨叙從五位先生為人剛潔以文章為性命其文暢達明快驅使萬卷專以氣行之外祖父畑中荷澤為一藩領袖先生自幼毅然期以一代文學其將瞑也顧左右吾於道終始一貫俯仰無所愧實如其言矣所著尊攘紀事米國誌法國誌觀光紀遊藏名山房文集研辯齋詩鈔藏名山房雜著行於世未刊者數百卷皆藏於家配河野氏拳四男二女長百世承祀次本枝昌高橋氏次碩人次猛夫

二女都子珠子銘曰

奥州雄鎮 蔚青葉城 龍蟠虎踞 斯生雋英
六師東征 討会命下 拳藩震驚 先生蹶起
名節凜然 有死無生 撤書心徵 出就學識
文章報國 遠航漢土 交遍朝野 日東文豪
不朽者文 何必施紫 千載之下 聞風而起
大政維新 仗義論爭
一朝勇退 西儒虛左

大正十五歲次丙寅六月

菊地硯山刻

⑤ 榴岡 八重紅枝垂れ桜」の碑



【石碑について】

〔説明〕

榴岡公園を愛し、清掃活動等を行っている榴岡明寿会は、植栽活動も活発に行なっており、桜はもとよりモクレンやナッツバキを始め、平成二年にはベニキリシマ五十本を植栽している。

【碑文】

榴岡の一重薄紅枝垂桜は伊達家四代綱村公植栽と言われ
る由緒ある桜で「名勝」ともなっているが、終戦前後の
荒廃で枯死寸前となりこれを憂えた老人クラブ榴岡明寿
会は昭和三十八年三月八重枝垂桜を四本植えたのが始ま
りで以後毎年植えつづけ、現在までに同桜百五十二本、
其の他を植樹した。この成長開花に依じて二十人町の花
見協賛会は昭和五十年四月より提灯を取り付け売店を設
ける等市民の観桜に協賛し奉仕している。茲に、明寿会
創立二十六周年並びに二十人町花見協賛会創立十周年を
記念しこの碑を建てる。

昭和五十九年四月吉日

榴岡明寿会会長 八島柄三
二十人町花見協賛会

(出典・宮城野区民ふるさと創生事業実行委員会)

⑥ 歩兵第四連隊跡 その歴史の碑



【石碑について】

明治四年十一月以来、兵員は仙台城に駐屯していたが、仙台市榴ヶ岡に新築中の洋風兵舎が落成したため、七年九月十一日、歩兵隊は全員この兵舎に移転した。

日本最初の洋式兵舎は、「宮城(皇居)」の平川門から出たところに建築されたが、榴ヶ岡兵舎もルネッサンス風二階建て純洋風建築の先駆けでもあった。

やがて兵舎は仙台の名物となり市民も地方の人びとも、「兵ていさんの家ば見っさいぐべえ」「うんだあ、おらも見っさいくべっちゃ」と、わざわざ見学にくるほどであった。また、いままでみたこともない洋風軍服を着た兵隊の宮庭でのフランス式調練も、奇異で珍しいものであった。ことに桜の花が見どきともなると、営門前の広場は、花見と兵舎・兵隊見学でごったがえしていた。男の子たちにとっては洋服を着て銃を持つ兵卒やその洋式調練は、よほど魅力があったらしく、やがて「兵隊ごっこ」といって調練を真似するようになってきた。

（『戦争と歩兵第四連隊』より）

【碑文】

〔表面〕

題額・至誠無息

歩兵第四連隊之跡

今村均謹書

〔裏面〕

歩兵第四連隊は明治八年九月九日重陽の佳節にあたり、わが郷土出身者によってここ榴ヶ岡に編成せられてから星霜実に八十有余年父子相繼いで護国の大任に就いたその間明治十年西南の役を初めとし、日清日露の両戦役、満州事変、昭和十二年の日支事変引続き大東亜戦争等幾多の事変戦争に参加し二回に亘り感状を賜る等、抜群の功績は永く記念すべき聯隊であった。然るに昭和二十年終戦に遭い畏しこくも 明治大帝より親授された我が軍旗は昭和二十年八月三十一日午後十二時南部仏領印度支那サイゴン市西北方約八十軒ホックモン町のゴム林内で涙を吞んで奉焼した我等聯隊出身者竝に縁故者有志は今は無き軍旗の栄光を偲び併せて陣歿せる幾多先輩戦友諸子の英魂を慰むる為ここに思い出深き営門前に記念碑を建立しこれを後世に伝うるものである

重陽会

その他有志一同

昭和三十五年九月九日

（出典・宮城野区民ふるさと創生事業実行委員会）

⑦ 民間ユネスコ運動発祥記念碑



【石碑について】

戦後の日本が国際社会に復帰する前の時期に、世界に先がけて仙台にユネスコ協会が発足したことは、日本の国際化にとっても大きなできごとであった。

民間ユネスコ運動の第一回世界大会は、この仙台で開かれ、世界七十五か国から、内外約千二百名が参加した。この大会は、世界に先がけた仙台をアピールすると同時に、街の国際化を進める大きな契機ともなった。

【碑文】

民間ユネスコ運動発祥記念碑

ブーツの娘 1984 佐藤忠良

〔正面右側面〕

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」というユネスコ憲章の精神に共鳴し、世界最初の民間ユネスコ協会が1947年7月19日仙台に誕生しました。

この像は民間ユネスコ運動の発祥を記念し、1984年7月に日本で開催された「民間ユネスコ運動世界大会」の機会に、仙台市出身の世界的に著名な彫刻家 佐藤忠良氏に制作を依頼してこの地に建立したもので 平和を求め、未来をみつめる若者の姿を表したものです。

〔正面左側面〕

―英文で同様の内容文が刻まれています。―

※この碑文は横書きです

⑧ 桜の園碑



〔石碑について〕

碑文を書いた黒川利雄氏は、旧制第二高等学校を大正六年に卒業し東北帝国大学医学部に進み、東北大学医学部長、東北大学長、日本学士院院長等を歴任した。また「宮城方式」と呼ばれる胃癌の早期発見のための集団検診方式を全国に先駆けて確立した。昭和四十二年文化勲章を受賞。昭和三十九年に仙台市名誉市民に推挙されている。

〔碑文〕

記

わが母校第二高等学校の創設は明治二十年新制東北大学への併設で昭和二十五年教育の使命を了えた。
明治、大正、昭和の三世にわたり雄大剛健の校風のもとに仙台市民の愛情と大いなる期待にはぐくまれた二高生一万四千有余は、感謝とその期待を胸に秘めて学都を離れた

今ここに創立九十周年を祝うにあたり曾遊の勝地榴ヶ岡に枝垂桜二十樹を贈植するは、市民への万腔の謝意と仙台の繁栄を庶幾う有志の象徴である

昭和五十一年十月

第二高等学校尚志会同窓會會長

黒川利雄撰

(出典・宮城野区民ふるさと創生事業実行委員会)

⑨ 梅の園碑



【石碑について】

昭和八年より二年間歩兵第四連隊長を務めた石原莞爾大佐（後に中将）は仙台陸軍幼年学校第六期の卒業生でもある。栄養補給用に植えたこの梅の木その他にも兵士の帰郷用の土産としてアンゴラうさぎの飼育をおこなったとの話もある。

（『ふるさと仙台・原町』高砂敏夫著より）

【碑文】

【表面】

石原莞爾氏は昭和八年八月から二ケ年間この地歩兵第四連隊長として在任し連隊諸兵の栄養源又非常食用にと自ら植えられた。

この四連隊跡地が仙台市民の公園として開放されたことを記念してこの碑を建立する。

昭和五十二年三月二十五日

石原莞爾將軍を偲ぶ会
建立会一同

【裏面】

歩兵第四連隊長石原莞爾大佐の日記より

昭和九年三月二十五日

梅 二〇〇本

（出典・宮城野区民ふるさと創生事業実行委員会）